

浜松新球場 最大370億円

2万2000人、ドームの場合

県が浜松市西区の遠州灘海浜公園篠原地区に整備する新野球場の概算事業費を80億〜370億円と見積もったことが21日、関係者への取材で分かった。球場全体を覆うドーム構造を採用し、収容人数をプロ野球の試合が年数回開催できる2万2千人規模にした場合に最も高額となる。野球場を含む公園全体の概算事業費は最大370億円超に膨らむことも判明した。 関連記事4面へ

県が事業費概算

予定地は海岸に近く、ドーム球場は強風対策や夜間

構造	2万2000人規模	1万3000人規模
スタジアム球場(外野スタンドコンクリート)	210億円	150億円
スタジアム球場(外野スタンド盛り土)	110億円	80億円
ドーム球場	370億円	290億円

照明によるアカウミガメへの影響など自然環境に配慮できる一方、多額の費用がかかる実態が改めて浮き彫りとなった。21日開会した県議会9月定例会でも議論の焦点になりそうだ。

県が概算事業費を取りまとめたのは規模や構造が異なる6案。規模は草薙球場相当(2万2千人)と愛鷹球場相当(1万3千人)の2案、構造はドーム球場、



スタジアム球場で外野スタンドがコンクリート構造と盛り土構造の3案を比較検討した。1万3千人規模のドームは290億円、2万2千人規模で外野スタンドをコン

クリート構造にした場合は210億円。最も事業費を抑えられるのは1万3千人規模で外野スタンドを盛り

土構造にしたケースで80億円だった。年間の球場利用者数は7万〜13万人、年間の経済波及効果は3億〜21億円、大規模修繕費を含む年間の維持管理費は1億〜5億円と想定。いずれも2万2千人規模のドームが6案の中で最大だった。

県は10月5日の県議会建設委員会、アカウミガメに関する環境影響調査の結果とともに概算事業費を公表する。12月に案を絞り込

み、パブリックコメント(意見公募)を経て年度内に基本計画を策定する方針。新野球場を巡っては、県議会最大会派の自民改革会議が昨年、高校野球県大会が開催可能で一般市民が使いやすい規模とするよう県に提言。一方、浜松市経済界や鈴木康友市長は今年8月に川勝平太知事を相次いで訪ね、プロ野球が開催できる2万2千人以上の規模と全天候型ドームを求めた。

浜松の新野球場 集中審査実施へ

県議会建設委員会

県議会建設委員会は21日、県が浜松市西区の遠州灘海浜公園篠原地区に整備する新野球場を巡り、10月5日に集中審査を実施する方針を決めた。夜間照明によるアカウミガメへの影響や野球場の整備費などを協議する。

アカウミガメを保護する地元のNPO法人サンクチュアリーエヌピーオーの馬塚文司理事長と、ウミガメ研究に取り組む岡山理科大学の亀崎直樹教授を参考人として招致することも決めた。

ドーム球場370億円 「一案に過ぎない」

川勝知事は22日の定例会者会見で、浜松市西区の遠州灘海浜公園篠原地区に整備する新野球場の概算事業費が最大で370億円に上ることの受け止めを問われ、「多くの選択肢の一つ。これに決めたというのではない」と述べた。

県は収容人数の規模や構

造の違いによって複数の案を検討し、概算事業費を80億〜370億円と見積もっていると思われる。球場全体を覆うドーム構造を採用し、草薙球場相当の2万2千人規模にした場合、最も高額な370億円と算定したとされる。

川勝知事は「(地元から)要望があったので(ドーム球場が)選択肢として入っている」とし、「(県議会の)委員会で検討して決まってきた」と述べた。